

さかてこう

坂手港（県管理地方港湾）

坂手港は観光の島、小豆島の東の玄関であり、壺井栄の小説「二十四の瞳」の舞台として知られる岬の分教場のある、田ノ浦半島の基部に位置しています。

本港は事前の両港であり、昔から帆船の寄港地として知られ、明治後期には高松～阪神航路の客船の寄港地となり、古い旅客船の歴史を誇っています。

本港の近代港湾としての整備は昭和2年に棧橋が設置されたのが始まりで、以後、昭和34年から38年、あるいは昭和45年から47年等、数次にわたり整備拡張が行われ、現在に至っています。

現在は、本県最大級のフェリーの岸壁および旅客船岸壁を有する観光港として知られ、春から秋にかけての観光シーズンには京阪神方面からも多くの人々が港を訪れ、ここからレンタルサイクル等を利用して、観光地巡りをする若い人たちなどで賑わっています。

